

いっしょ

Vol. **104** 2016.9 (隔月刊)

社会福祉法人 一心福祉会

<https://www.isshinfukushikai.or.jp/>



「貝殻工作に宿を借りた夏の珍客」
撮影者：池原 浩幸



4年生～6年生の児童と一緒に汗を流しました



一心福祉会地域貢献活動

作業を通して交流

～新大宜味小中学校で芝生張り作業～

一心福祉会では、地域貢献活動に向けたアクションプランを作成して計画的に取り組みでおり、今回新しく建て替えられた、村立の小・中学校へも何かお役に立たてる事はないかと考えていたところ、学校敷地の一部に芝生の植え付けの予定があることを聞き、児童生徒と一緒に作業をすることで学習の一環にもなると考え、去った七月八日(金)に法人職員約四十名と

小学四年生から六年生の児童や学校関係者と共同して汗を流しました。

芝張り作業を経験して児童からは「芝張りがパズルみたいで楽しかった」等の感想も聞かれました。

途中雨に打たれながらの作業となりましたが、皆で頑張つて植え付けした芝生なので新校舎同様に大切に育ててくれるとうれしいです。

一心福祉会職員合同研修

「海・川の本格レジャーシーズンを迎えて」

七月六日(水) 国頭地区消防本部より六名の職員をお招きし、法人職員合同での救急法講習会を開催しました。

初めにAEDを用いた心肺蘇生法を実践して頂き、その後グループ毎に別れて各自が人形を使用しての実践練習を行いました。

皆、最初は緊張の面持ちで行なっておりましたが、消防職員の丁寧な指導を受け、スムーズに心肺蘇生法の一連の流れを体得しておりました。



消防職員の指導のもと真剣に取り組んでいます。



心肺停止から一分毎に死亡率は七～八%下がります。その間にできる一次救命処置が心肺蘇生法である為、万が一緊急の事態に遭遇した際に適切な応急手当等ができるように知識や技術を身につけておくことの重要性を感じ共に、応急処置が必要な方を救うために『自分でできることを行う』事の大切さを学びました。

一心療護園支援課主任
照屋 芳直

素晴らしい歌声に感動!!

G4来る

デイサービス

八月二十三日にデイサービスにおいて「ヴォーカルアンサンブルG4」ミニコンサートが行われました。メンバーは

新城哲夫(テノール1) 崎浜康夫(テノール2) 宮城敏(バリトン) 照屋寛八(ベース)の四名の方で音楽教師として教鞭をとられた後、退職後も沖縄男声合唱団のメンバーとして学校や福祉施設で慰問公演などで活動されています。

グループ名のGとは原点に立ち返った四名という意味ですが、ジージー(翁)やガー



カエルのポーズ



4人そろい踏み

ジュー(頑固者)、音楽用語で陽気・愉快という意味のジョコーソのGであったり様々な意味を含んでいるようです。

コンサートの前半は童謡・唱歌、後半は昭和の名曲の二部構成で四氏の本格的な美しいハーモニーに会場の皆さんは真剣な眼差しで聞き入り魅了されているようでした。

コンサート終了後利用者より「娘時代に戻ったような気分になった」「素晴らしい歌声に感動しました。今回限りでなくまた来てほしい」と感想を述べられていました。



ぶながやっ子

ありがとうございます。来年もおわがいします。



ぶながや太鼓

今年も喜如嘉保育所年長組さん(十三名)がいつしんに来ました。いつしんに到着すると大きな声で「よろしくお願ひします」とあいさつがあり、お年寄りのみなさんも感心していました。夕涼み会で発表した『ぶながや太鼓』の勇壮な踊りでフロアーいっぱい走り、踊る園児の姿はたくましく又、可愛らしく見えました。踊りを終えお年寄りから園児一人ひとりにプレゼントが送られ「またおばー達に踊り見せに来なさいよ」と約束する姿がとても微笑ましく感じました。喜如嘉保育所の職員をはじめ園児の皆さんありがとうございました。

小規模 いっしん



プレゼントを手に笑顔



スカットボールに熱中!

七月二十九日、第十一回三村身障協スポーツ大会が、一心療護園ホールにて開催されました。五十二名の会員の方が、二十七名のサポーターの支援の中、様々な競技で、それぞれの力を発揮し、競いながら声をかけ合い、笑い福がホールいっぱい広がる交流会でした。生活相談員 平良 佳代子

一心療護園

三村身障協スポーツ交流会

祭り 楽しみました〜♪

デイサービス



デイサービス

デイサービスでは八月八、九日に利用者に夏祭りの雰囲気を感じてもらったことと、射的や水風船釣り等の懐かしいお遊びを楽しみました。

射的では上手に的に当たると「今のは何点だねー」と言いながら楽しんでいました。又、水風船釣りではなかなか輪ゴムに掛けることが出来ずに両手でつまんで釣り上げる方もいて、「簡単そうに見えるが難しいねー」と笑顔で話されていました。おやつにかき氷を準備し、それぞれ好きな味のシロップをかけて美



「あら外れたー」



狙いを定めて

味いそうに頬張ってました。これからも利用者の皆様に楽しんでもらえるよう、色々な企画していきたいと思えます。

介護員 比嘉 潤治

「涼」を求めて〜川遊び〜

えすの里

夏の暑さも本番、炎天下が続く中、えすの里では「涼」



川遊び

を求めて田嘉里へ川遊びに出かけました。

川の中に浸かって涼んでいる方や飛び込みをして楽しんでる方、網を持ってエビ取りをしている方、それぞれ川遊びを満喫しました。

職員は、安全確保をしながら利用者さんがより川遊びを楽しめる様、協力して支援にあたり、最後まで安全に楽しく過ごす事が出来ました。

「気持ちよかった〜」という声が一番多く聞かれ、今回の川遊びも大盛況でした！

みんなで
歌って
踊って

小規模 あがり

七月十六日(土) 東村平良区の三線倶楽部のみなさんが小規模多機能ホームあがりに訪れました。

今回で二回目となる交流は三線に合わせて踊りを披露していただきました。

また、三線に合わせて金城武雄さん(平





小規模 いっしん



思いっきり楽しむ

七月二十八日に大宜味村社協主催のミニデイサービス夏まつりがあり、いっしんの利用者も参加しました。会場では元氣な皆さんに圧倒されていました。次第に雰囲気にも慣れ歌や踊りを一緒に楽しんでいました。

小規模 いっしん

ミニ夏祭りに参加して



久しぶりの再会を喜ぶ



また、久しぶりに再会し「元氣だったね」「紡績で一緒だったね」「田嘉里のかたですよね」等々互いの近況に話が盛り上がり、改めて地域に出かけて交流することの大切さを感じた日となりました。

これからも地域へ積極的に出向いて良い関わりをしていきたいと思えました。

管理者 平良 芳美



皆と一緒にカチャーシー

良区出身)が太鼓を叩いて、盛り上がりました。最後は、利用者、職員、三線倶楽部の皆さんと一緒にカチャーシーを元気に踊って、笑顔溢れる最高の一日でした。

平良区、三線倶楽部の皆さんありがとうございました。

介護員 金城 翼

海を眺めながら

八月一日に小規模多機能ホームあがりでは居室の模様替えをしました。

その部屋からは観光客がカヌーに興じている様子や慶佐次湾が見渡せる最高の場所でもあります。

また、利用者の皆さんの活動風景や手工芸品を展示しており、皆でお茶を飲みながら海を見て交流をする場所となっています。

このアイデアは川田区出身の池原直吉さんの「せっかくこんな最高の場所があるのにもったいないよ」との一言から始まりました。



あがりから見える慶佐次湾

これからは皆で慶佐次湾を眺めながら、毎日ティータイム!地域の皆さんいつでもどうぞ「あがり喫茶へ!」

管理者 比嘉 恵子



デイサービスで久しぶりに再会した給食センター仲間

左から・古波蔵朝子さん(85歳)
平良テルさん(92歳)
山城米子さん(88歳)

給食センター 仲間と再会



人生はたった一度と言われますが、その人の歩んだ人生は唯一のもの。その貴重な体験を「私のヒストリー」(ライフヒストリー)と題してご紹介する企画です。

古波蔵朝子さん「当時は五名で調理していました。今の様に機械も無いので手作業で沢山の食材を切りました。」

山城米子さん「調理師の試験勉強を皆でする為に給食センターの壁一面に試験問題を張り付けて勉強をしました。当時の栄養士は笑味の店の笑子さんでした。一度だけ芭蕉の新芽を使った献立を作ったがアクが沢山出て、これは食べられなかった。楽しい思い出ばかりです。」

平良テルさん「初めは喜如嘉小で牛乳だけだったが後からパンが付きました。各学校から給食センターに係が集められ完全給食が始まった。そこでシチューというものを知りました。当時は講習会が今帰仁なんかでよくあって参加し、コンクールもあって私と米子さんが北部地区代表になりました。」



昭和 43 年旧大宜味小学校敷地内に設置された大宜味村給食センター(大宜味小学校閉校記念誌より)

大宜味村 給食センターの歴史

昭和三十五年
昭和四十三年
パン給食開始
大宜味小学校敷地内に大宜味村給食センター共同調理場開設

対象数：小学校 七九六名
中学校 五三四名
教職員 八三名
合計一四〇三名

昭和五十一年
各小・中学校給食準備室完成

平成八年
大宜味村饒波に移転現在に至る

(大宜味村教育委員会より資料提供)

力作揃いの二人展

デイサービス

八月十二日～二十六日の間、前田幸輝さん、宮城



私達の作品です

和邦さんによる「狭間二人展」デイサービスにて開催されました。

お二人は喜如嘉出身で昔からの顔なじみで、写真や絵画を趣味としており、デイサービスに通っている方に憩いの時間をとの想いから昨年に引き続き実施しました。

写真ではテレビドラマ「白旗の少女」にエキストラとして参加された利用者や地域の方たちの若き日の姿もあり懐かしむ声もきかれ、多くの方々が熱心に見入っているようでした。

相談員 高江洲 千秋



「辺野古の海は今」

塩屋湾内海神祭

やんばるの家

八月二十一日に行われた国の重要無形民俗文化財・塩屋海神祭へ地元出身の利用者と見学へ行きました。当日は天気にも恵まれ利用者家族や地元の友人なども多く訪れており、昔を思い出し涙ぐむ利用者や、家族と一緒に大声で応援する利用者と普段施設では見れない表情を見る事が出来、利用者・職員共に有意義な時間を過ごす事ができたとおもいます。ショートステイを利用して宮城力ネさんは、「とても楽しかった。来年もまた行こうね。ありがとう」と、満足した様子でした。

小規模 いっしん

当施設より海神祭に三名の利用者さんが地域の行事を見たいという事で計画し、出かけました。勇壮な



塩屋湾でのハーリー競争の様子

ハーリー競争の権掬きと迎えの婦人の皆さんの人数の多さに感動していました。会場では他の施設の皆さんと地域の方もいて、交流もでき暑さもありませんでしたが楽しいひと時を過ごしました。



小規模いっしんの利用者様と地域の方



やんばるの家の利用者と家族

ソーメン流し

小規模 いっしん

七夕行事の一環として七月七日の午後より、おやつを兼ねてのいっしん名物のソーメン流しを行いました。

ソーメンが流れてくると、スムーズに取れる方、なかなかうまく取れない方もおり、終始楽しい雰囲気でした。皆さん「夏はこれが上等」とおいしく沢山いただきました。



暑さにまけずに楽しくいただきました。

ドライブを楽しむ

やんばるの家

七月四・五日と二回に分けて、十二名の利用者が大宜味村平南橋の近くにできたシークワサー加工場を見学した後、古宇利島まで出かけました。古宇利大橋では車内から両側に緑色の海が広がっている景色を見て利用者はとても感動していました。

今後も、少し遠くに行く機会を計画して行きたいと思えます。



シークワサー工場前で記念撮影

8月26日(金)

第18回 一心福社会 納涼祭



トピックス

♪ ~フォークコンサート~ ♪

♪♪♪ ちゃんちゃんこ ♪♪♪



大いに盛り上がりました!

~地域の方々も大勢来場~



大宜味村青年会による 雄姿



一心福社会ゆかたLady



~南国ムードを漂わせて~

U'i ohana



介護に関する

困った を共に考えます!

サービスや手続きの相談等受付ます。

介護支援センター やんばる

電話 0980-44-2398

担当: 座喜味・安里・當眞

お気軽に
お電話下さい!

